

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	山梨大学
設置者名	国立大学法人山梨大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
教育学部	学校教育課程 幼児教育コース (幼小発達教育 コース)	夜・通信	165	121	11	297	13	
	学校教育課程 障害児教育 コース	夜・通信			21	307		
	学校教育課程 言語教育 コース	夜・通信			24	310		
	学校教育課程 生活社会教育 コース	夜・通信			30	316		
	学校教育課程 科学教育 コース	夜・通信			22	308		
	学校教育課程 芸術身体教育 コース	夜・通信			28	314		
	学校教育課程 やまなし小学校 教育コース(山梨 県小学校教員養 成特別教育プロ グラム)	夜・通信			10	296		
医学部	医学科	夜・通信	165	0	166	331	19	
	看護学科	夜・通信	165	0	136	301	19	

工学部	機械工学科	夜・通信	167	4	2	173	13	
	マイクロエレクトロニクス工学科	夜・通信	167	4	13	184		
	電気電子工学科	夜・通信	167	4	12	183		
	コンピュータ理工学科	夜・通信	167	4	9	180		
	土木環境工学科	夜・通信	167	4	7	178		
	応用化学科	夜・通信	167	4	11	182		
	先端材料理工学科	夜・通信	167	4	3	174		
	工学科	夜・通信	167	63	126	356	13	
生命環境学部	生命工学科	夜・通信	167	16	83	266	13	
	地域食物科学科	夜・通信	165	16	75	256		
	環境科学科	夜・通信	167	15	72	254		
	地域社会システム学科	夜・通信	165	11	88	264		
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

山梨大学電子シラバス「実務経験のある教員等による授業科目」 (URL) https://syllabus.yamanashi.ac.jp/2026/ ※PDF 及び詳細検索絞り込み
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	山梨大学
設置者名	国立大学法人山梨大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

山梨大学ホームページ「役員等情報」 (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/135
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	国立大学法人(他法人) 事務局長	2025.4.1～ 2027.3.31	総務・労務・情報担当(兼)副学長 組織運営体制への チェック機能 経営計画の策定
常勤	やまなし幼児教育センター 相談役	2025.4.1～ 2027.3.31	財務・施設・産学官 連携・研究インテグ リテイ担当(兼)副 学長 組織運営体制への チェック機能 経営計画の策定
非常勤		2025.4.1～ 2027.3.31	男女共同参画担当 組織運営体制への チェック機能 経営計画の策定
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	山梨大学
設置者名	国立大学法人山梨大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 例年1月中旬に、授業担当教員に、授業の方法及び内容、授業計画、到達目標、成績評価の方法や基準、その他の事項を記載するよう、「シラバス記入上の注意点」を添えて作成を依頼している。 各授業担当教員が作成後、3月中旬にホームページにて公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	山梨大学ホームページ (URL) http://syllabus.yamanashi.ac.jp/2026/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業計画における、その授業の到達目標や成績評価の方法並びに全学共通教育科目等履修規程及び各学部の履修規程により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を授与し、最終的に学部教授会にて審議し、卒業認定を行っている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 客観的な指標として、「GPA制度及び履修登録単位数の上限制度に関する要項」を制定し、公表している。 GPAの種類と計算方法は、当該学期に履修したGPA対象科目について、学期GPA及び通算GPAに区分し、各区分の定める方法により計算するものとし、計算値は小数点以下第2位を四捨五入し表記。 ・学期GPA=(当該授業科目のGP×当該学期に履修登録した授業科目の単位数)の合計/当該学期の成績評価を受けた授業科目の単位数の合計 ・通算GPA=(入学時からの当該授業科目のGP×履修登録した授業科目の単位数)の合計/入学時から成績評価を受けた授業科目の単位数の合計。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学生便覧 27～29 ページ (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2026/03/Handbook2026.pdf

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>山梨大学は「地域の中核、世界の人材」の標語の下、地域の知の拠点として専門性をもって世界で活躍できる人を育てることを目指し、「豊かな人間性と高い倫理性を身につけた高度職業人の育成」を教育の基本方針としています。以下に本学のカリキュラムを通じて全ての学生に獲得を求めるコンピテンシーを示します。これには情報を適切に活用する力、論理的かつ柔軟な思考力、多様な人々と調和する力、共創により問題を解決する力、より良く生きるための力が含まれ、個々の知識や技能の獲得のみならず、様々な知識や技能を統合して地域や世界の諸問題の解決と新たな知の創造ができる力の獲得を目指します。これらのコンピテンシーと学部・学科等の教育プログラムが規定する専門的な知識技能の全てを教育プログラムが設定する水準で獲得することで学位が授与されます。</p> <p>上記とは別に、各学部において学位授与方針を制定しそれに基づき、修得単位数等を踏まえ、学部教授会にて審議・決定します。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>(学部共通) https://www.yamanashi.ac.jp/about/53 (教育学部) https://www.yamanashi.ac.jp/about/47429 (医学部) https://www.yamanashi.ac.jp/about/47433 (工学部) https://www.yamanashi.ac.jp/about/47431 (生命環境学部) https://www.yamanashi.ac.jp/about/47430</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	山梨大学
設置者名	国立大学法人山梨大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	山梨大学ホームページ (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/140 https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2016/01/R06-2zaimusyohyou.pdf
収支計算書又は損益計算書	山梨大学ホームページ (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/140 https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2016/01/R06-2zaimusyohyou.pdf
財産目録	
事業報告書	山梨大学ホームページ (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/140 https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2016/01/R06-4jigyohoukokusyo.pdf
監事による監査報告 (書)	山梨大学ホームページ (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/140 https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2016/01/R06kanjikansa.pdf

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称 : _____ 対象年度 : _____)
公表方法 :
中長期計画 (名称 : 第4期中期目標・中期計画 対象年度 : 令和4年度～令和10年度)
公表方法 : 山梨大学ホームページ (中期目標・中期計画) (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/54

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法 : 山梨大学ホームページ (国立大学法人評価) (自己点検・評価) (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/54
--

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法 : 山梨大学ホームページ (大学機関別認証評価) (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/54

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 教育学部
教育研究上の目的（公表方法：山梨大学ホームページ） (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/47429
(概要) 人間と文化・社会に関する幅広い視野と教養をもち、人間の生涯発達と学習についての専門的な知識を備え、豊かな人間生活の構築に寄与する人材養成のための教育・研究を目的にしています。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：山梨大学ホームページ） (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/53 (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/47429
(概要) 山梨大学は「地域の中核、世界の人材」の標語の下、地域の知の拠点として専門性をもって世界で活躍できる人を育てることを目指し、「豊かな人間性と高い倫理性を身につけた高度職業人の育成」を教育の基本方針としています。以下に本学のカリキュラムを通じて全ての学生に獲得を求めるコンピテンシーを示します。これには情報を適切に活用する力、論理的かつ柔軟な思考力、多様な人々と調和する力、共創により問題を解決する力、より良く生きるための力が含まれ、個々の知識や技能の獲得のみならず、様々な知識や技能を統合して地域や世界の諸問題の解決と新たな知の創造ができる力の獲得を目指します。これらのコンピテンシーと学部・学科等の教育プログラムが規定する専門的な知識技能の全てを教育プログラムが設定する水準で獲得することで学位が授与されます。 上記とは別に、本学部において学位授与方針を定めそれに基づき、修得単位数等を踏まえ、教授会にて審議・決定します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：山梨大学ホームページ） (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/47429
(概要) 学位授与方針(ディプロマポリシー)に定めた専門知識・スキルである「人や社会への関心」及び「他者との協働」、「教職への熱意」、「教職教養」、「子ども理解」、「授業力・実践的技能」、「教科等の専門教養」、「持続的変態力」の育成について、カリキュラム（教育課程）を編成し体系的に実施します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：山梨大学ホームページ） (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/47429
(概要) 次のような資質と能力を持つ人の受験を期待します。 ・子どもの育ちや学校教育について高い関心を持てる人 ・自ら深く学ぶために課題を見出すことができる人 ・課題の解決に向けた探求の努力を継続する意欲のある人 ・多様な考えの人たちと協力できるコミュニケーション能力や協調性を備えた人

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 医学部
教育研究上の目的（公表方法：山梨大学ホームページ） （URL） https://www.yamanashi.ac.jp/about/47433
（概要） 深い人間愛と広い視野を持ち、医の倫理を身に付け、科学的根拠に基づいた医学的知識・技術を備え、地域医療及び国際医療に貢献できる医療人及び研究者を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：山梨大学ホームページ） （URL） https://www.yamanashi.ac.jp/about/47433
（概要） 医学科： 山梨大学のキャッチフレーズは「地域の中核、世界の人材」、医学部の理念・目的は「深い人間愛と広い視野を持ち、医の倫理を身に付け、科学的根拠に基づいた医学的知識・技術を備え、地域医療及び国際医療に貢献できる医療人及び研究者を養成する」です。医学科は、これを実現するため、医学教育モデル・コア・カリキュラムに基づき、本学の教育・研究・医療資源を活かしたカリキュラム（教育課程）を策定しています。これを学修し、以下の知識・能力（技能・技術）・態度を身につけた学生に学位を授与します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 深い人間愛、医療プロフェッショナリズム及び医の倫理 2. 医学的知識、基本的な診療能力及び患者個々に応じた適切な対応能力 3. コミュニケーション及びチーム医療の実践力 4. 生涯にわたり学び、地域医療及び国際医療・社会に継続的に貢献する姿勢 5. 世界水準の医療及び医学研究の理解と実践力 看護学科： グローバルな視点をもって看護学分野の継続的発展を支え、地域社会に貢献できる、質の高い看護職者の育成を目指しています。人間の生命の尊厳を基本とし、看護の倫理性を身につけ、深い人間愛と広い視野を持つ看護専門職の育成を目的とし、全学的に定められた教養と汎用能力に加えて、以下の専門知識・スキルを身につけた学生に学位を授与します。 <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性 ・問題解決力能力 ・看護実践力 ・連携する力 ・地域ケアに貢献する力 ・自己研鑽力
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：山梨大学ホームページ） （URL） https://www.yamanashi.ac.jp/about/47433

(概要)

医学科：

医学科では、「深い人間愛と広い視野を持ち、医の倫理を身に付け、科学的根拠に基づいた医学的知識・技術を備え、地域医療及び国際医療に貢献できる医療人及び研究者を養成する」という医学部理念を実現するためのカリキュラム（教育課程）を策定しています。このカリキュラムでは全学及び医学部の学位授与方針（ディプロマポリシー）と医学教育モデル・コア・カリキュラムに定められた能力、資質を確実に身につけ、それらを統合的に発揮する力、すなわち「自ら学び、自ら考える力」を獲得できるように授業科目が編成されています。学生の学修成果は、シラバスに記載された評価方法及び評価基準によって、到達目標への到達度を評価します。総括的評価と形成的評価を行い、臨床実習開始前の資格判定はアウトカムベースで行います。また、卒業判定はディプロマポリシーに基づいて総合評価を行います。

看護学科：

看護学科のカリキュラムは、全学的に定められた教養と汎用能力のコンピテンシー（資質・能力）と、看護学科独自に定めた専門知識・スキルすべてを確実に身につけ、それらを統合的に発揮する力、すなわち「自ら学び、自ら考える力」を獲得するように設計されています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：山梨大学ホームページ）

(URL) <https://www.yamanashi.ac.jp/about/47433>

(概要)

医学部では、次のような資質と能力を持つ人材を求めています。

- ・ 将来、患者一人一人に最良の医療を提供するために、努力を惜しまない人
- ・ 健康問題に興味があり、地域医療や国際医療に貢献したいと考えている人
- ・ 疾患の原因を解明し、治療法を開発したいと考えている人
- ・ 深い人間愛と高い倫理観、広い視野を持ちコミュニケーション能力が高い人

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部
教育研究上の目的 (公表方法：山梨大学ホームページ) (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/47431
(概要) 広い教養と深い専門知識を身につけ、豊かな想像力と優れた判断力を備えた、将来を担う工学系技術者を養成する教育・研究を行います。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：山梨大学ホームページ) (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/53 (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/47431
(概要) 山梨大学は、「地域の中核、世界の人材」の標語の下、地域の知の拠点として、専門性をもって世界で活躍できる人を育てることを目指し、「豊かな教養と高い倫理性を身につけた高度職業人の育成」を教育の基本方針とし、学位取得にあたっては、単に知識・技能を獲得するだけにとどまらず、思考力・判断力・表現力・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ力などに加え、これらを総合的に発揮する力、すなわち「自ら学び、自ら考える力」の獲得を求めます。そこで、本学では、学部・学科等の教育プログラムで規定される専門知識・技能に加えて、全学的に規定する教養と汎用能力の全てを、教育プログラム毎に設定する水準で達成した学生のみ学位を授与します。 上記とは別に、本学部において学位授与方針を定めそれに基づき、修得単位数等を踏まえ、教授会にて審議・決定します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：山梨大学ホームページ) (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/47431
(概要) 機械工学科： 機械工学に関わる基礎及び専門知識を習得し、それらをものづくりに活用する能力を養成します。 メカトロニクス工学科： 専門知識・スキルはそれぞれ本学科が示すカリキュラムポリシーにより学びます。 電気電子工学科： 卒業生に求める数学・物理、電子デバイス、電磁気学、アナログ回路、デジタル回路、信号とシステムの各分野の専門知識・技能について、基礎的な内容を学ぶ科目は必修科目とし、演習科目を同時開講することで確実な知識の習得を図ります。 コンピュータ理工学科： 次世代の高度情報化社会の中核として活躍できる学士力を備え、多様な情報処理技術を身につけた人材を育成することを教育理念に掲げ、これに基づき、本学科の卒業生が具備すべき力として6つの項目をディプロマポリシー（学位授与方針）として規定し、これを達成するため世界基準の教育カリキュラムに準拠した科目群を開設しています。 土木環境工学科： 「土木工学と環境工学に関する広い基礎知識・技術を併せ持ち、持続可能な社会の構築に意欲的に貢献できる技術者」を育成することを教育理念に掲げ、これに基づき、卒業生に求められる教養・汎用能力についてのコンピテンシー（能力・資質）に加えて、本学科が示す専門的知識・技術についてのコンピテンシーを身につけることをディプロマポリシー（学位授与方針）として規定し、これを達成するためのJABEE（日本技術者教育認定機構）認定を受けた教育プログラムとなっています。

応用化学科：

学部・修士課程の一貫教育を基本とし、6年間で次世代の新素材・エネルギー・環境等の分野を学び、人類の福祉と持続的発展可能な社会の構築に貢献できる人材を養成するためのカリキュラム(教育課程)を構築し、本学科が示すカリキュラムポリシーを定めています。

先端材料理工学科：

次世代を担う材料技術者・科学者を養成することを基本理念としています。本学科では、講義・実験・実習を通じ、幅広い知識と能力を備え、科学技術の進展に応じて自らを鍛錬し、生涯にわたって持続可能な就業能力を育成することを目的に、ディプロマポリシー(学位授与方針)を達成するためのカリキュラム(教育課程)を構成しています。

工学科：

ディプロマポリシーに基づき工学部工学科卒業生が備えるべき専門知識・スキルを修得(到達目標を達成)させるための教育課程を編成・実施しています。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法：山梨大学ホームページ)

(URL) <https://www.yamanashi.ac.jp/about/47431>

(概要)

《理念・目的》 広い教養と深い専門知識を身につけ、豊かな想像力と優れた判断力を備えた、将来を担う工学系技術者を養成します。

《育成目標【未来世代を思いやるエンジニアリング教育】》 工学部のキャッチフレーズ「未来世代を思いやるエンジニアリング教育」を指針とし、工学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に負っている責任を理解し、科学的知見と技術を総合して社会的課題を解決する能力、すなわちエンジニアリングデザイン能力を身につけた人材を養成します。

《求める資質・能力・人物像》 工学部では、工学系技術者となって社会に貢献しようとする意欲をもつ、次のような人を求めています。

- ・ 4年間学び抜くことができる学力と強い意志を有していること
- ・ 工学または各コースで学ぶ内容に強い興味と適性を有していること
- ・ 工学を学ぶ上で必要となる数学、理科の基礎力を有していること
- ・ 多様な情報を分析し、主体的に判断できること
- ・ 国語、地歴公民など高校で履修する幅広い科目により人間や社会に関する基礎的な知識や興味を有すること
- ・ 書かれた文章を理解し、利用できること。また、学んだことや自らの考えを論理的な文章で表現できること
- ・ 国際的なコミュニケーション能力の基本として基礎的な英語の語学力を有し、入学後も積極的に学ぶ意欲を有すること
- ・ 実験や観察の計画や実行に積極的に取り組んだ経験があること。

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 生命環境学部
教育研究上の目的（公表方法：山梨大学ホームページ） （URL） https://www.yamanashi.ac.jp/about/47430
（概要） 自然と社会の共生科学に基づき、広い視野と深い専門知識を身につけ、持続可能な地域社会の繁栄を担う人材を養成する教育・研究を行います。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：山梨大学ホームページ） （URL） https://www.yamanashi.ac.jp/about/53 （URL） https://www.yamanashi.ac.jp/about/47430
（概要） 山梨大学は「地域の中核、世界の人材」の標語の下、地域の知の拠点として専門性をもって世界で活躍できる人を育てることを目指し、「豊かな人間性と高い倫理性を身につけた高度職業人の育成」を教育の基本方針としています。本学のカリキュラムを通じて全ての学生に獲得を求めるコンピテンシーには、情報を適切に活用する力、論理的かつ柔軟な思考力、多様な人々と調和する力、共創により問題を解決する力、より良く生きるための力が含まれ、個々の知識や技能の獲得のみならず、様々な知識や技能を統合して地域や世界の諸問題の解決と新たな知の創造ができる力の獲得を目指します。これらの全学的に定められたコンピテンシーに加えて、各学科が規定する専門的な知識技能の全てを各学科が設定する水準で獲得することで学位が授与されます。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：山梨大学ホームページ） （URL） https://www.yamanashi.ac.jp/about/47430
（概要） 生命工学科： 生命工学科（バイオ・メディカルデータサイエンス特別コース含む）のカリキュラムは、全学的に定められたコンピテンシー、生命工学科独自に定めた学位授与の方針（ディプロマポリシー）に掲げる専門的な知識技術を修得させるため、体系的に組織された講義、演習、実験・実習などを適切に組合せた授業を開講します。 地域食物科学科： 地域食物科学科のカリキュラムは、全学的に定められたコンピテンシーと、地域食物科学科独自に定めた専門的な知識技能すべてを確実に身につけ、それらを統合的に発揮する力、すなわち「自ら学び、自ら考える力」を獲得できるように設計されています。 環境科学科： 環境科学科の教育課程は、全学的に定められたコンピテンシーおよび環境科学科で独自に定めた学位授与の方針（ディプロマポリシー）に掲げる専門的な知識技能を修得させるため、基礎、専門、応用と体系的に組織したカリキュラムを編成しています。 地域社会システム学科： 地域社会システム学科のカリキュラム（教育課程）は、全学的に定められたコンピテンシーと、地域社会システム学科独自に定めた専門的な知識技能を確実に身につけ、それらを統合的に発揮する力、すなわち「自ら学び、自ら考える力」を獲得するように編成されています。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：山梨大学ホームページ） (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/47430</p>
<p>(概要) 生命環境学部では、「自然と社会の共生科学の創生」を目指し、次のような資質と能力を持つ人を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校で履修する各教科・科目をまんべんなく学修し、基礎知識を身につけていること ・自然環境の成り立ちや生物の多様性などを理解するために、理科（物理、化学、生物、地学）や数学、情報など、自然科学や数理科学の基礎学力を身につけていること ・社会の特質や人間としての在り方などについて理解するために、社会科学の基礎となる社会（地理、歴史、公民）の基礎学力を身につけていること ・文章を読解したり自らの考えを論理的な文章で表現したりするために、国語の基礎学力を身につけていること ・グローバルな問題に取り組むために、必要な基礎的な外国語の能力を有すること ・実験やフィールド調査を自主的かつ継続的に取り組むことのできる行動力を有すること ・教員や先輩、友人、留学生等と積極的に対話できるコミュニケーション力を有すること

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：山梨大学ホームページ (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/136</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	7人	—					7人
大学院	—	201人	167人	53人	391人	0人	812人
その他	—	11人	12人	2人	17人	0人	42人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		534人				534人	
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：山梨大学ホームページ (URL) https://eradb-ref.yamanashi.ac.jp/html/home_ja.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
大学教育・DX推進センターにおいて、学内教員研修会（FD）をその趣旨に基づき開催している他、各学部においても学部教員研修会（FD）を開催している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに
進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
教育学部	110人	115人	104.5%	460人	481人	104.6%	人	人
医学部	185人	185人	100.0%	990人	995人	100.5%	人	人
工学部	365人	394人	107.9%	1,500人	1,686人	112.4%	20人	18人
生命環境学部	165人	165人	100.0%	640人	689人	107.7%	人	人
合計	825人	859人	104.1%	3,590人	3,851人	107.3%	20人	18人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
教育学部	137人 (100%)	24人 (17.5%)	110人 (80.3%)	3人 (2.2%)
医学部	181人 (100%)	1人 (0.6%)	177人 (97.8%)	3人 (1.7%)
工学部	372人 (100%)	213人 (57.3%)	147人 (39.5%)	12人 (3.2%)
生命環境学部	152人 (100%)	55人 (36.2%)	94人 (61.8%)	3人 (2.0%)
合計	842人 (100%)	293人 (34.8%)	528人 (62.7%)	21人 (2.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 山梨大学ホームページ 大学案内 (URL) https://www.yamanashi.ac.jp/about/281 キャリアセンター (URL) https://www.career.yamanashi.ac.jp/about/52				
(備考) 医学部における「就職者数」には臨床研修医122名を含む。				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
教育学部	132人 (100%)	123人 (93.2%)	6人 (4.5%)	3人 (2.3%)	0人 (0%)
医学部医学科	125人 (100%)	111人 (88.8%)	10人 (8.0%)	4人 (3.2%)	0人 (0%)
医学部看護学 科	60人 (100%)	57人 (95.0%)	2人 (3.3%)	1人 (1.7%)	0人 (0%)
工学部	375人 (100%)	302人 (80.5%)	59人 (15.7%)	14人 (3.7%)	0人 (0%)
生命環境学部	172人 (100%)	147人 (85.5%)	20人 (11.6%)	5人 (2.9%)	0人 (0%)
合計	864人 (100%)	740人 (85.6%)	97人 (11.2%)	27人 (3.1%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>例年1月中旬に、授業担当教員に、授業の方法及び内容、授業計画、到達目標、成績評価の方法や基準、その他の事項を記載するよう、「シラバス記入上の注意点」を添えて作成を依頼している。各授業担当教員が作成後、3月中旬にホームページにて公開している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業計画については、例年1月中旬に、授業担当教員に、授業の方法及び内容、授業計画、到達目標、成績評価の方法や基準、その他の事項を記載するよう、「シラバス記入上の注意点」を添えて作成を依頼している。</p> <p>各授業担当教員が作成後、3月中旬にホームページにて公開している。</p> <p>学修成果の評価については、授業計画における、その授業の到達目標や成績評価の方法並びに全学共通教育科目等履修規程及び各学部の履修規程により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を授与し、最終的に学部教授会にて審議し、卒業認定を行っている。</p>

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
教育学部	学校教育課程 幼小発達教育 コース	136単位	有	26～32単位
	学校教育課程 障害児教育コース			
	学校教育課程 言語教育コース			
	学校教育課程 生活社会教育 コース			
	学校教育課程 科学教育コース			
	学校教育課程 芸術身体教育 コース			
	学校教育課程 やまなし小学校教 育コース(山梨県小 学校教員養成特別 教育プログラム)	145単位		
医学部	医学科	205単位	有	28～38単位
	看護学科	124単位	有	
工学部	機械工学科	124単位	有	26～32単位
	ロボット工学			
	電気電子工学科			
	コンピュータ理工学科			
	土木環境工学科			
	応用化学科			
	先端材料理工学科			
工学科				
生命環境学部	生命工学科	124単位	有	26～32単位
	地域食物科学科			
	環境科学科			
	地域社会システム学科			

GPAの活用状況（任意記載事項）	公表方法：
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）	公表方法：

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：山梨大学ホームページ
 (URL) <https://www.yamanashi.ac.jp/about/136#m7>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
教育学部	学校教育課程幼児教育コース（幼小発達教育コース）	535,800円	282,000円	25,000円 10,000円	教育実習諸経費 介護等体験実習諸経費(※) (※) 障害児教育コース除く
	学校教育課程障害児教育コース				
	学校教育課程言語教育コース				
	学校教育課程生活社会教育コース				
	学校教育課程科学教育コース				
	学校教育課程芸術身体教育コース				
	学校教育課程やまなし小学校教育コース(山梨県小学校教員養成特別教育プログラム)				
医学部	医学科	535,800円	282,000円	0円	
	看護学科				

工学部	機械工学科	535,800 円	282,000 円	0 円	
	マイクロエレクトロニクス工学科				
	電気電子工学科				
	コンピュータ理工学科				
	土木環境工学科				
	応用化学科				
	先端材料理工学科				
	工学科				
生命環境学部	生命工学科	535,800 円	282,000 円	0 円	
	地域食物科学科				
	環境科学科				
	地域社会システム学科				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>学科別に学年ごとのガイダンスを毎学期初めに実施している。また、所属学部クラス担任制を設け、必要に応じ修学指導を行っている。</p> <p>このほか、修学基礎知識を始め、履修申告や履修モデル、年間スケジュールについて、HP上で公開し、分からないことがあれば各学部教務担当窓口での相談を受け付けている。生命環境学部においては、各教員によるオフィスアワーのほか、学部長によるオフィスアワーを設け、学生が気軽に相談できる機会を設けている。</p> <p>入学者の入学料・前期授業料の徴収猶予について</p> <p>【新制度の対象者】</p> <p>日本学生支援機構給付奨学金予約採用候補者及び入学後に春の在学採用申請予定者は、入学手続き時に必要書類を提出の上で申告してもらい、徴収の猶予を行っている。給付奨学金の採用決定後、支援区分に従って減免額を通知し、徴収を行っている。</p> <p>【本学独自の免除等申請者】</p> <p>申請条件に該当する方で、入学料・授業料の免除・徴収猶予を希望する方には、入学手続き時に所定様式を記入・提出してもらった上で徴収猶予を行っている。書類選考の上、減免結果又は徴収猶予の可否を決定し、徴収期日等について通知している。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>キャリアセンターにおいて、人間力を向上させ、目的意識を持って自分に合った人生設計ができる人材育成をするための「キャリア教育」を入学早期から実施するとともに、進路支援事業の拡充と複数のキャリア・アドバイザーによる、きめ細かい相談・助言を行っている。</p> <p>教育学部では、教職支援室において、1～3年生全員への個人面接と、4年生への進路希望調査を通じて、教員志望への意識喚起や教員採用に係る相談などを行っている。また、教員採用試験に向けての志願書作成・小論文・面接等の指導及び対策講座を行っている。</p> <p>工学域では、各学科において学生主任を中心に就職情報を学生に提供し、企業説明会を独自に実施している。また、山梨県からの補助金交付を受け、県内のものづくり企業への就職に関心を持つ学生に対して、「地域産業リーダー養成教育プログラム」を実施する等、きめ細やかな支援・指導を行っている。</p> <p>生命環境学部では、学部独自に就職支援委員会を設け、ガイダンスや就職内定者との懇談会を実施する等、きめ細やかな支援・指導を行っている。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>学生相談窓口として、学生サポートセンター、保健管理センター、学生相談室、人権侵害についての相談員などを設置し、学生相談体制を整えている。</p> <p>また、外国人留学生に対しては、国際化推進センターを窓口とし、学生サポートセンターと連携して支援している。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：山梨大学ホームページ

(URL) <https://www.yamanashi.ac.jp/about/136>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F119110105676
学校名 (〇〇大学 等)	山梨大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	国立大学法人山梨大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		782人（ 552）人	764人（ 537）人	810人（ 568）人
内 訳	第Ⅰ区分	155人	152人	
	（うち多子世帯）	（ 35人）	（ 22人）	
	第Ⅱ区分	73人	76人	
	（うち多子世帯）	（ 15人）	（ 一人）	
	第Ⅲ区分	64人	43人	
	（うち多子世帯）	（ 12人）	（ 12人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	87人	82人	
	区分外（多子世帯）	403人	411人	
家計急変による 支援対象者（年間）				一人（ 0）人
合計（年間）				815人（ 568）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	— 人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	— 人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	— 人	人	人
計	18人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
GPA等が下位4分の1	一人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	113人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	113人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。